

紫峰の風

shihou no kaze



筑波大学
University of Tsukuba
第4号 2017年5月

「紫峰の風」は学生生活の様子や活動の報告を、基金協力者の皆様にお届けする広報誌で、紙面の企画や記事の取材等は学生広報会議や広報部会の学生が実施しています。この名称には「筑波の峰から吹き降る風に、我々の活動への想いを乗せて、全国の皆さまのもとへお届けする」という意味が込められております。



入学式を終え花道を歩く新入生

平成 29 年度 筑波大学入学式・筑波大学大学院入学式

4月7日、平成 29 年度筑波大学入学式・筑波大学大学院入学式がつくば国際会議場にて執り行われた。午前には生憎の雨となっていたが、午後からは雨が止み、晴天の中、式が行われた。

午前には筑波大学入学式が行われ、2,217名の学群生及び118名の編入生、20名の理療科教員養成施設への新入生が新しく筑波大学の仲間となった。また、午後には筑波大学大学院入学式が行われ、2,511名の大学院生が入学した。式が終わった新入生はそれぞれの学群や研究科等のオリエンテーションに参加し、当日の予定を終えた。

開式の前に筑波大学混声合唱団による学生歌「常陸野の」の合唱、筑波大学管弦楽団による演奏が行われた。式は学長式辞から始まり、次に役職者が紹介され、最後に歌手のポール・バード氏と他4名の学生による歓迎の歌「IMAGINE THE FUTURE～未来を想え」で新入生を迎えた。

(取材/広報部会 清野晃平・生物4年)

今後の主な予定 (変更になる場合があります)

春季スポーツ・デー	5月13、14日
宿舍祭	5月26、27日 (28日予備日)
春ABモジュール期末試験	6月27日～7月3日
紫峰の風第5号発行予定	7月下旬
春ABCモジュール期末試験	8月2日～8日
同 (東京・夜間)	7月25日、8月2日～5日
春学期授業終了	8月8日
同 (東京・夜間)	7月29日
期末試験予備日	8月9日
同 (東京・夜間)	8月1日、9日、10日
夏季休業	8月10日～9月30日
同 (東京・夜間)	8月11日～9月30日

—内容—

キャンパスニュース、OB・OGに聞く	1頁
学生相談室から	
正体を隠した悪質な宗教団体の勧誘被害を防ぐために	2頁
筑波大学のキャリア形成・就職支援、桐の葉日記、お知らせ	
特集：T-ACTのすゝめ	3頁
文サ連、芸サ連、全代会、体育会活動紹介	3、4頁

キャンパスニュース



Windows10 に更新された PC

全学計算機システム更新

2月中旬から3月中旬にかけて、全学計算機システムの更新が行われた。全学計算機システムとは、学術情報メディアセンターが教育用途のために導入している計算機システムのことであり、これには学内約 30 拠点に設置される、集中管理された約 1,000 台の PC が含まれる。

今回の更新で、起動時に各 PC で選択できる OS (Windows、Linux) が、Windows は 10 Enterprise LSTB に、Linux は Ubuntu 16.04 LTS になった。さらに、起動時間の短縮などシステムの性能の向上が見られ、講義目的で PC に導入されているアプリケーションも最新のものになった。

担当者によると、このような大々的な更新は基本的には4～5年に一度行われており、次の更新は5年後になるとのことである。

(取材/文サ連広報局長 長坂美優・創成2年)



アメフト部と写真を撮る合格者

合格発表

3月7日、春の訪れまであとわずかという寒空の下、筑波大学個別学力検査前期日程の合格発表が行われた。

多くの受験者たちが緊張した面持ちで発表に臨んでいたが、発表直後には保護者と喜びを分かち合い、抱き合う合格者も見られた。

また、恒例のアメリカン・フットボール部による合格者の胸上げや写真撮影も行われていた。

合格者の一人に、筑波大学に入学してやりたいことをうかがったところ「サークル活動やアルバイトに挑戦したい」と語っていた。また、別の一人は「専門的な知識が要求されるので気を引き締めて臨みたい」と語っていた。

合格者たちは握りしめたこぶしに冬の寒さを残しながら、その瞳にそう遠くない未来への希望と期待を浮かべていた。

(取材/広報部会 米山和文・数理物質1年)



卒業証書を受け取る卒業生

胸上げされる卒業生

記念撮影する卒業生

平成 28 年度 筑波大学卒業式・筑波大学大学院学位記授与式

3月24日、つくば国際会議場で筑波大学卒業式および大学院学位記授与式が行われた。晴れ渡る空の下、午前の学群卒業式では学群卒業生 2,234 名及び理療科教員養成施設卒業生 21 名、午後の大学院学位記授与式では大学院修了生 2,163 名が、新たな一歩を踏み出した。

永田恭介学長は式辞で、卒業生に向けて「ヒトと地球の豊かで幸せな未来に向けた考え方を理解し、行動していく責任感を持っていただきたいと思っています。我が国で最も古い高等教育機関を創始とし、最も新しい国立総合研究大学である本学を築立つ皆さんには、個人の幸せを超えて追求しなければならないことがあるはずだからです。」と、期待の言葉を述べ、「皆さんがそれぞれに新しいことに挑戦することこそが、本学らしさを世界に発信することであり、皆さんに続く後輩たちの活動の幅を広げてい

ます。社会から見た大学の価値は、卒業する皆さんの価値そのものです。」と締めくくった。卒業生代表謝辞では、理工学群応用理工学類の鈴木隆良さんが、「これからの生活には大学入学時のような不安を感じますが、自身の進路に誇りと自信を持ち、4年間で培ったことを活かして乗り切る所存です。」と述べた。

つくば国際会議場には、サークル等の後輩が集まっており、式が終わり、卒業生たちが式場から出てくると、あちこちで胸上げや記念撮影が行われた。応援部 WINS のエールや、後輩たちの祝いの言葉のなか、卒業生たちは盛大に門出を祝福された。

(取材/文サ連広報局長 坂井大悟・情報2年)

1

4月4、5日に新入生の宿舍入居が行われた。天気は春の陽気となり、引っ越しにはちょうどよい天気であった。

新入生は各宿舍の共用棟で入居手続きを終えた後、自分の専門学群・学類の先輩達に熱烈な歓迎を受けていた。各専門学群・学類の先輩達は後輩となる新入生を歓迎した後、新入生と会話しながら宿舍まで案内したり、大きな引っ越しの荷物を運んだりして新入生のサポートを行っていた。新入生の中には家族と一緒に来ている方も多く、新入生とその家族、そして専門学群・学類の先輩らが一堂に会する賑やかな宿舍入居となった。

宿舍に入居する新入生の多くは初めての一人暮らしとなることだろう。不安も多いことだろうが、同じ宿舍に入居する仲間と協力して、より快適で楽しい宿舍生活を送って欲しい。

(取材/広報部 清野晃平・生物4年)



先輩に歓迎されている新入生



小雨の中行われた新歓本祭



新歓のピラを受け取る新入生

新入生歓迎祭を終えて

今年の新歓祭本祭が4月8日に開かれました。例年新歓祭本祭は入学式当日に行われていましたが、今年は入学式が国際会議場で行われたためにその翌日の土曜日の開催となりました。

今年も入学式翌日の開催であるう、当日は朝から小雨が降っており新歓祭が成功するかどうか不安でしたが、多くの新入生にご来場いただき、成功のうちに新歓祭本祭を終了させることができました。

小雨の影響からステージ企画が2年連続で中止となったことは悔しく、またこちらの不手際で迷惑をお掛けした団体も幾つかあったことは反省すべき点であります。

しかし、その中でも本祭を大きなトラブルもなく終わらせられたのには、新歓祭参加団体の皆様や、運営上の相談に多く応じていただき、また運営のための援助金の支給にご尽力をいただいた紫峰会基金をはじめとする学生生活課の方々、三系の運営委員によるところが大きくありました。上記の方々はこの場を借りて心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(寄稿/2017年度筑波大学新入生歓迎祭推進委員会委員長 古山幹人・人文3年)

学生相談室から

受付窓口 029-853-2415
電話相談 029-853-2406

「大学生の保護者になるということ」
人間系心理学域 杉江 征

4月に入り、大学は多くの新入生を迎えて再び賑わいを取り戻してきています。うららかな春日に、ピカピカの自転車キャンパスのあちこちを動き回っていて、初々しさや活力を感じます。新入生の皆さん、そして保護者の皆さま、ご入学おめでとうございます。

新入生の皆さんはこれから徐々に「大学生」になっていく課題に取り組んでいくことになります。まずは、新しい生活になれていくことなのですが、例えば、多くの学生は一人で生活することを学ぶことが求められます。また、高校時代の友達関係から離れて、新しい人間関係を築いていくことも求められます。学び方も高校時代のものとは異なってきます。より主体的な関わりが求められるようになってきます。そして、保護者との関係も同様に少しずつ変わることが求められています。

大学生は青年期にあたり、親からの自立や自己確立がテーマに

なります。数年かけて少しずつその作業を行っていくのが大学時代です。学生生活の中で喜怒哀楽を体験しながら、親に対しては時に甘えたり、時に強がったりして、ひっついたり離れたりを繰り返しながらやがて少しずつ自立していくものです。保護者としては、子どもが求めている時には適度に甘えさせてあげて、それ以外の時には、本人の主体性を尊重して適度に距離をとりながらちゃんと離れたところから見守ってあげます。子どもの成長に合わせて私たち保護者自身も「大学生の保護者になるということ」が求められます。また、子どもが巣立ってしまい、寂しさや喪失感などを体験されている場合には、家族の人間関係や生活スタイルの再調整や再構築が求められています。変化を求められているのは子どもたちだけではなく、私たち保護者も同じです。

遠く離れたところから子どもたちを見守る中で、何か心配なことがありましたら、気兼ねなく学生相談室や総合相談窓口をご利用ください。一緒に学生の皆さんの成長を見守っていきたくと思っています。どうぞよろしく願います。

卒業生特集

OB・OGに聞く

●現在

筑波大学卒業後、東京都の心理職として勤務しています。現在は障害者施設に配属となり、親元を離れて生活されている、知的障害や肢体不自由等の障害をもつ方々の支援に携わっています。利用者の方々が季節感ある生活が送れるように、散歩や音楽等の日中活動や、季節行事の企画をしています。また心理検査を実施して評価を行い、医者や看護師、保育士など様々な職種の職員と連携して、その方がもつ強みや課題を探っています。先輩達にご指導をいただきながら、利用者の方々がより豊かな生活を送ることが出来るように、日々奔走しております。

●学生時代にしてよかったこと

一人暮らしを学生時代から経験しておいて良かったと思います。高校時代までは、親が当たり前やってくれていた自炊、洗濯、掃除や家計管理を自分だけで行い、親の有難さを痛感しました。またうまくいかない時には友人に相談しながら、学生時代の時間があるうちに、自分なりの家事のやり方を確立することが出来ました。そのため仕事を始めた後も、家事はあまり負担にならず、スムーズに新生活を始められたように思います。

●学生時代にしておけば良かったこと

様々なコミュニティに関わり、幅広い考え方や価値観に、もっと触れておけば良かったと思います。就職後は、仕事に関する知識は深まりますが、なかなか見聞を広める機会が少ないように感じます。筑波大学は総合大学として様々な学問や人との出会いがあったため、他学類の講義を受講したり、サークルやバイト、ボランティアなど、興味があることにはもっと積極的に参加して、学生時

代にしか出会えない考え方、価値観に触れれば良かったと感じています。

●現役の学生へ

大学生は学問、サークル、バイトなど、様々なことに挑戦できる時期であり、どれに重きを置くかを自分自身で選べる時期だと思っています。時間に余裕があり、自分自身で時間の割り振りを考えることができる貴重な4年間です。たくさんの人に出会い、たくさんの考え方に触れて、自分なりの価値観を形成していきましょう。



執筆者情報

氏名: 齋藤優子
卒業年月: 2013年3月
在学時所属: 人間学群心理学類
在学時課外活動: 斬桐舞、聴覚障害者支援

●現在

法務省管轄の保護観察所という役所で働いています。保護観察を受けている人、すなわち犯罪をした方のうち比較的罪状が重かったり情状が悪かったりする方と接し、生活指導全般を行うのが主な業務です。現在の勤務地では犯罪発生率が高いので、仕事をしていると色々な人に出て、それぞれの抱えている問題を目の当たりにすることになります。実効性の高い保護観察を行うためにどうすれば良いか悩む日々ですが、1人の人生の重い部分を共有し、隣で見ている一緒に考えていける点でとても幸せな仕事だと感じています。

社会感情との兼ね合い、実施者の不足、制度の認知度の低さ、家族関係を始めた社会構造の変化など、課題が山積みの分野であることには違いありません。将来的には隣接職域である刑務所での勤務や法務省本省の勤務にて政策立案する可能性もあるので、広い視野を持って仕事をしていきたいと思います。

●学生時代

サークルは、医学空手道部、合唱団むくどり、法学研究会桐法会に所属しました。合唱は元々の趣味ですが、当初警察志望だったので他の2つを選び、異色の組み合わせになりました。一番出たのは空手ですが、3つの掛け持ちでいつもバタバタしていたような気がします。

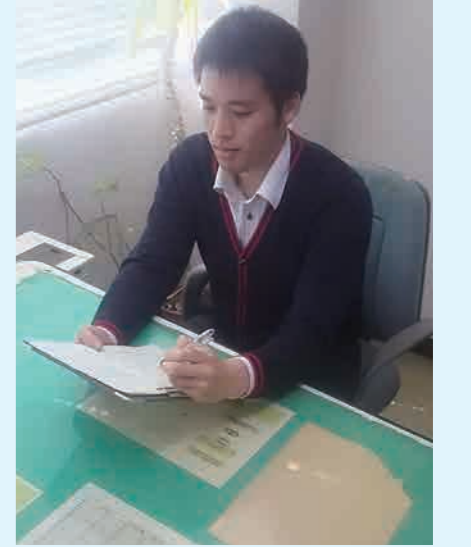
卒業研究も「身体姿勢が虚偽自白の生起に及ぼす影響」と、テーマを冤罪に据えました。指導教員の先生にお願いして無理矢理警察と関連付けた内容にした記憶があり、警察愛が窺えますね。結局諦めてしまいましたが、学生時代に知見を得られたことは良かったなと振り返っています。

●やってよかった・やっておけばよかったこと

やっておけばよかったことを挙げ始めたら切りがなくなってしまうので、やってよかったことを主に書こうと思います。

大学生のうちには出来ないことをしよう！と意気込んで、あれこれ手を出しています。1ヶ月間ニューオーダーへ語学研修に行き、フルマラソンを走り、映画撮影の企画に参加しました。

それだけでも充分楽しかったのですが、筑波大学の特色に乗りかっかり色々な学群の授業を履修したのが強く印象に残っています。体育や芸術分野のプロから直接学べる贅沢な環境は本当に素晴らしかったです！卒業に必要なのは124単位ですが、趣味で159単位集めました。心理学は特に学域内だけで通用するものではないので、周辺学域との関連を実感することのできた筑波大学のシステムには本当に感謝しています。



執筆者情報

氏名: 中川慧介
卒業年月: 2014年3月
在学時所属: 人間学群心理学類
在学時課外活動: 医学空手道部、合唱団むくどり、法学研究会桐法会

学生の父母等の皆様へ **正体を隠した悪質な宗教団体の勧誘被害を防ぐために** 学生部学生生活課

毎年、宗教団体が正体を隠し、「ゼミや勉強会」、「学生サークル」などと称して学内で勧誘活動を行っています。いったん入会してしまうと、自分の意志で脱会することが難しい団体が多いようです。

【新入生がターゲット?】

正体を隠して悪質な勧誘を行う宗教団体は、大学の新入生をターゲットに、一見宗教団体と分からないような巧妙な手口で勧誘を行ってきます。「わたしはそんな変なことにだまされるはずがない」と思っている人ほど要注意です。本学においては、授業(フレッシュマン・セミナー)や各種配布物、ポスターを通じて注意喚起するなど、その対策に取り組んでいます。勧誘される側の学生に危機感がないことから、被害に遭う学生が後を絶ちません。

保護者の皆様におかれましては、不審な勧誘に騙されないように帰省や電話等での連絡の際に、お子様に注意を促すようお願いいたします。

【本学での活動の実態】

サークル等になりすまして活動している宗教団体は、大学周辺のアパート、マンション等の一室や一軒家を借りて活動の本拠地としています。上級生に言葉巧みに勧誘された新入生は、徐々にマインドコントロールにかかっていきます。夏休み前頃になって、ようやく宗教団体であることを告げられますが、その頃には、上級生との信頼関係が構築されており、活動を続けてしまうようです。2年生になると、主に同じ学類の後輩をターゲットに、今度は自らが新入生を勧誘する側になります。

本学では、勧誘を受けた学生や途中で脱会した学生などから、多くの情報を得ておりますが、ある宗教団体では、毎年違ったサークルの名前を使い、Web 上に「新入生の生活相談」等のブログを作るなど、巧妙な勧誘を続けて毎年10名以上の新入生の勧誘に成功しているようです。

【本学における宗教活動の制限】

一般生活においては、思想・信条の尊重(信仰の自由)・自治的活動(結社活動や意見表明の自由)を理由なく制限することはできませんが、本学では、『国立大学法人筑波大学学生の活動に関する法人規程』において、学内における特定の政党を支持する政治活動や特定の宗教のための宗教活動を禁止しています。その大きな理由は次の3つの現実的理由からです。

①サークル活動であれ、宗教活動であれ、学生の本分である学業を圧迫するものは問題です。宗教団体は、学生に勧誘や献金のノルマを課します。授業時間以外は、朝から夕方までキャンパス内で勧誘を行い、夜はアパート等へ訪問伝道を行ったり、集会参加の旅費や献金のため膨大な時間をアルバイトに費やしたりすることにもなります。何よりも、友人・知人を活動に勧誘することで人間関係を崩壊させてしまうことが問題です。

②正体や活動目的を隠し、マインドコントロールを駆使して勧誘を行う団体は、それ自体が個人の自由な意思決定を阻害しているといえます。また、そのような勧誘行為を行う学生も、かつては十分な情報や適切な説明を受けずに入信した被害者であり、勧誘する者、される者とも学生相談や学生指導の対象になります。

③大学教育、特に1年、2年においては、学生の柔軟で自立的な思考能力を涵養することが大きな教育目標です。したがって、この時期

に特定の宗教的信条や人生観のみを教え込み、学生の視野と活動を一定の範囲に囲い込むことは教育上問題です。学生自身が自ら選択した結果だとしても、リベラルアーツの考え方や自分が自分らしく生きるといった現代的理念から考えると大いに問題があるといえます。

【勧誘事例】

事例1

学食で福祉サークルを名乗る先輩から勧誘を受け、一度参加した際に優しく迎え入れられた。その後は、毎日電話が来るようになり、風邪をひいて休んだ時には手紙をもらい、感激した。4月後半に1泊2日の合宿に誘われて参加した時に、宗教らしい内容の講義があったため、先輩に「宗教団体ですか?」と尋ねたが、「違うよ。自分を高めるための勉強だよ」と言われた。しかし、違和感を払拭できず、クラス担任に相談したところ、学生生活課へ相談するよう勧められ、その後、自ら辞める決意をした。

事例2

学内を歩いていた時に、2年生から「人生の目的を考えるサークル」に誘われた。一度は断ったものの、自分の連絡先を教えてしまい、何度も誘われたため参加することにした。毎日、大学の外にあるマンションの一室に通い、「人生の目的」について先輩から話を聞いた。5月には、「新勧合宿」に誘われ、「仏教に説かれている絶対の幸福」について徹底的に話し、徐々に仏教系の「宗教」であることを告げられるが、優しくしてくれた先輩方を裏切れない気持ちで、そのまま宗教団体に入ってしまった。2年生になるときには、新入生を勧誘する側となってしまった。

これまで、信仰の自由を尊重するということから、宗教等の勧誘に対して大学がきちんと対応しにくい面は確かにありました。しかし、筑波大生として受け入れた以上、学生が悪質な勧誘を行う宗教団体の被害にあうことのないよう、大学が予防に尽力すべきだということは言うまでもありません。これらの宗教団体の活動について、予防教育や情報提供を行い被害を最小限に留めることは大学の重大な責務です。本学では全学生向けの広報誌や新入生向けの冊子等でも悪質な勧誘を行う宗教団体に関しての注意を再三呼び掛けていますが、巧妙な手口により騙される学生が少なくありません。

信者になった学生は、家族、友人、先生からの忠告を一切受け入れず、宗教団体の教えの下に行動し、そして、また騙して勧誘する側になるのです。

保護者の皆様におかれましては、不審な勧誘に騙されないようお子様が帰省の際や電話等での連絡の際に注意を促すとともに、このようなことで困ったときには、直ちに大学の総合相談窓口や学生部学生生活課に相談してください。

※この記事は、個人の信仰を批判するものではなく、悪質な勧誘に騙されないよう注意を促すものです。

- 総合相談窓口 029-853-8430
- 学生部学生生活課 029-853-6092,2245,2246

就職特集 **筑波大学のキャリア形成・就職支援** キャリアサポート部門/学生部就職課

筑波大学における就職支援は、キャリアサポート部門/就職課によって行われています。また、「キャリア支援担当教員会議」を設置し、各教育組織と連携し、より一層支援に当たっています。

企業への応募にあたっては、人物が重要視され、自己表現をしっかりする必要があります。従来のような就職活動では思うような内定を得られません。現在は、よりリアルな情報が大切です。キャリアサポート部門/就職課では自己理解・自己発見のために就職相談のっています。また、学生の就職活動が円滑に行われるように、就職ガイダンスや学内企業説明会、就職サポーター制度の実施、就職先の開拓、就職情報の収集と提供、卒業生の進路先把握などに積極的に取り組んでいます。

学生の就職支援のため「筑波大学キャリアサポート部門/学生部就職課ホームページ」を開設しています。各種就職情報の提供及び進路希望等の届出は、このHP上で行われています。進路希望調査の入力は、就職活動の初期段階で必要となります。このシステムは、インターネットを利用して、企業の求人情報、教員・公務員の採用試験情報、ガイダンス情報、学内企業説明会情報、就職活動に特定したOB・OG名簿、内定・試験受験レポートなどの情報を迅速に提供することにより学生の就職活動を支援するものです。

就職活動の時期については、今年は、企業等の採用選考は3月1日会社説明会解禁、6月1日採用選考解禁、10月1日以降内定とはなっているものの、経団連に加盟していない外資系企業等などが、独自の採用活動を行うなどの事例がありましたので、正確な情報収集に努めることが大切です。キャリアサポート部門/就職課では、就職活動のサポートとして、就職活動の流れ・自己理解・面接対策等の各種就職ガイダンスや業界研究及び学内企業説明会を開催し、早い段階から学生が「就職」への意識向上・活動意欲を高められるよう情報提供や支援を行っています。

企業への就職については、景気の浮揚に伴い、売り手市場とされ



学内企業説明会



キャリアサポート部門/学生部就職課ホームページ
http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp/career/

ています。しかし、人物本位の厳選採用を明確にし、その時々企業の戦略や、置かれた環境に応じて自らが行動できる、即戦力となる人材を採用するという方針に変わりはありません。

また、企業の人事担当者によると「コミュニケーション能力がある学生、問題解決能力のある学生、クリエイティブな発想を持った学生」を求めているということです。これからの学生生活の中で、自分のスキルを高めるだけでなく「自分は何をしてきたのか、何ができるのか、何をしたいのか、それをどう今後活かすのか」を見極める自己理解・自己発見をし、自分を表現することが必要となります。このため、キャリアサポート部門/就職課では、1、2年次生のうちから学生生活を充実させ自立的な行動が取れるよう、総合科目として「キャリアデザイン-働く自分」、「Career Development in Global Context」を開設しております。更に新入生全員につくばキャリアポートフォリオ(ファイル)を配付して、在学中のさまざまな経験や気づきなどを記録し、自身の進路選択に役立てるようにしていきます。

教員・公務員を目指す学生は早い時期から筆記試験突破のための準備が必要です。キャリアサポート部門/就職課では、教員・公務員試験合格のために、模擬試験や各種試験対策講座を実施しています。

採用試験の面接では人物を重視する傾向が強くなっています。勉学や課外活動など学生生活の中で経験する一つ一つの積み重ねが、よい結果につながります。ぜひとも有意義な大学生活を送られることを願っています。

【キャリアサポート部門/就職課問合せ先】

- キャリア・就職相談 029-853-8444
- 企業・団体関係 029-853-6091
- 教員・公務員関係 029-853-2249

第43回やどかり祭

テーマ"千祭一遇 ～おいでよ宿舎の森～"

筑波大学宿舎祭、通称やどかり祭は毎年5月末に行われ、今年で第43回を迎える伝統あるお祭りです。やどかり祭は平砂宿舎周辺で開催されることから、宿舎祭という名前ですが、来場されるのは宿舎に住む学生だけではなく、留学生を含む筑波大学の学生や地域の方々など、毎年多くの方にご来場いただいています。

当日は、クラスやサークルで出店をする「模擬店」や自分たちが一から作り上げた御輿でパフォーマンスを行う「御輿企画」、各学類、有志の新入生がチームを組みパフォーマンスを競い合う「ゆかたコンテスト」など多くの企画で大いに盛り上がります。またこれらの企画を通して、仲間との絆や多くの思い出が生まれ、今後の大学生活がより充実したものになるでしょう。

今年のテーマは「千祭一遇～おいでよ宿舎の森～」です。千祭一遇とは一生に一度の新入生としてのやどかり祭を全力で楽しんでもらいたいという想いを込めたテーマです。

最後になりましたが、やどかり祭にご協力くださる関係者の方々や地域の方々により感謝申し上げます。当日は是非会場に足をお運びいただきたいと思います。皆さまのご来場心よりお待ちしております。

○前夜祭 5月26日(金) 16:00～21:30

- ・前夜祭オープニング…和太鼓演奏、大門陣
- ・野外ライブ…ステージ上でのサークルによるライブ演奏



宿泊施設・館内食堂のご案内

紫峰会基金協力者と旧紫峰会会員の方は1泊200円割引します

筑波研修センター

- ・1泊3700円より(食事別)
- ・シングル145室・ツイン5室・和室5室

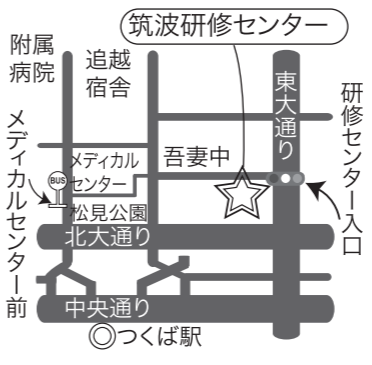
筑波大学同窓会「茗渓会」の関連法人「(一財)筑波学都資金財団」が運営する宿泊施設です。電話予約は7時から24時まで受け付けています。割引対象の方は予約受付の時にお申し出下さい。

館内食堂 こうせい

- ・朝食500円均一
- ・定食750円より

バイキング形式、懇親会、パーティも承ります。内容、料金など気軽にご相談ください。

(座席80名・立食可)



〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5
Tel 029-851-5152 Fax 029-851-8886
E-mail center@meikei.or.jp
URL <http://www.meikei.or.jp/~center/>

前夜祭：5月26日(金)

本祭：5月27日(土)

場所 筑波大学平砂地区

※雨天の場合、前夜祭は中止、本祭は5月28日(日)に順延

- ・トーチトワリング…火を灯したトーチ棒を用いたパフォーマンス
- ・火文字…前夜祭の夜、火の文字が鮮やかに浮かび上がる

○本祭 5月27日(土) 11:15～21:00

- ・本祭オープニング…本祭開催を宣言するオープニングセレモニー
- ・やどカラ 2017…筑波大のど自慢大会
- ・Let's Dance!!!…筑波大学内のダンスサークルによるダンスパフォーマンス
- ・大学生クイズ…筑波大学のクイズ王決定戦
- ・御輿…自作の御輿とのパフォーマンス
- ・福男…筑波大学一の Lucky Boy & Girl を決める大会
- ・ゆかたコンテスト…やどかり祭の締めを飾る目玉企画

この他にも前夜祭、本祭共通で模擬店やミニステージ&大演芸、縁日が開催されます。また今年では実行委員から集めた物を販売する”やどかりゆーす”やお餅つきを体験できる餅つき企画もございます。

○会場アクセス

つくばセンターバスターミナルより、「筑波大学中央」行き、または筑波大学循環バス「平砂学生宿舎前」下車。当日は会場周辺で交通規制を行います。また、付近の駐車場も閉鎖致しますので、自家用車でのご来場は出来る限りお控えください。



第1期分授業料納付期日のお知らせ

平成29年度第1期分授業料の納付期日が以下の通りとなります。口座引落の方は5月26日(金)までに指定口座へご入金下さい。また、引落口座を開設していない方へは振り込み用紙を送付しておりますが、原則として口座引落による納付としておりますので、第2期分以降は口座引落となるよう手続きをお願いいたします。

金額 267,900円(ただし、法科大学院は402,000円)

引落日 5月29日(月) **納付期限** 5月31日(水)

■お問い合わせ 財務管理課出納担当(収入) 029-853-2161

紫峰の風 第4号 2017年5月発行

発行 事業開発推進室

編集 学生部学生生活課

学生広報会議(長坂美優・創成2年、坂井大悟・情報2年、劉承桓・地球3年、大野茜・応理3年、仲清峻・知識3年、笹井裕平・医学2年、佐々木寛明・生物2年)
広報部会(黒川正臣・生命環境2年、山岡瑛英・シス情1年、米山和文・数理物質1年、清野晃平・生物4年、村上優衣・人文4年)

タイトルロゴデザイン 塚本真理(芸専2016年度卒)

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

電話：029-853-5886

E-mail : gk.shihokai@un.tsukuba.ac.jp

平成28年度 紫峰会基金課外活動団体援助金系別配分額について

平成28年度課外活動団体援助金は2,050万円で、2月22日の紫峰会基金運営委員会にて通常活動に対する一般援助金を700万円、宿泊交通費に対する遠征援助金を1,350万円とし、系別配分額が承認されました。

系別配分額は全課外活動団体から提出された過去1年間の収支計算書を三系それぞれで査定・集計し、学生財務会議(文化系サークル連合会、芸術系サークル連合会、体育会、全代会の代表者で構成)で議論・作成したものです。

その後、全ての課外活動団体に対して課外活動団体援助金を支給しました(4ページ参照)。

平成28年度 紫峰会基金課外活動団体援助金系別配分額 (円)

		文サ連	芸サ連	体育会	合計
援助金総額	援助金総額	2,047,059	3,466,251	14,986,690	20,500,000
	総支出	44,778,457	101,282,191	399,045,383	545,106,031
一般援助金	援助金額	728,196	1,471,164	4,800,640	7,000,000
	総支出	26,128,421	69,652,497	231,060,216	326,841,134
遠征援助金	援助金額	1,318,863	1,995,087	10,186,050	13,500,000
	総支出	18,650,036	31,629,694	167,985,167	218,264,897

平成29年度 紫峰会基金学生支援業務について

2月22日に開催された紫峰会基金運営委員会にて、平成29年度の紫峰会基金による学生支援業務の内容が承認されました。概要は以下のとおりです。

主な学生支援業務

課外活動支援業務	運営支援	会計面接 援助金対象団体の会計の実情把握と助言
		運営相談・会計クリニック 課外活動団体や学生組織等の運営・会計相談対応
	財政支援	学生財務会議運営 援助金の配分基準・配分案の作成等を行う
		援助金支給 課外活動団体や、学園祭等の全学的な行事等に対し援助金を支給 貸付金給付(課外活動団体への貸付)
学生生活支援業務	生活相談 学生及び寄附者(保護者等)からのさまざまな相談に対応	
	緊急貸付金給付(学生個人への貸付)	
	印刷サポート 課外活動団体等及び学生個人への印刷機器等の供用と運営	
広報業務	「紫峰の風」の編集・発行・発送作業 学生広報会議及び課外活動資料室広報部会の協力を得て実施	
	学生広報会議運営 「紫峰の風」の編集等を行う	

桐の葉日記

冬の寒さも過ぎ去り、頬をなでる春風に心弾む季節となりました。今年の桜は例年より開花が遅く、入学式には満開の桜が新入生の皆さんを迎えました。そんな桜も、この紫峰の風第4号が皆様の元に届くころには瑞々しい新緑の葉を繁らせていることでしょう。

今回の紫峰の風の作成にあたって、私は特集の企画および取材を担当しました。第4号は私にとって、初めて関わらせていただく紫峰の風です。慣れない作業が続く中、気づいたことがあります。それは“正しく伝えることの難しさ”です。取材のメモを正確に取るのは時間との戦いです。しかも、文章中の単語一つで、文のニュアンスは変わります。しかし、時間も紙面のスペースも無限ではありません。文章で何かを伝えるとき、ただ書くだけでなく、こうした様々な制約と戦いながら、いかに取材させていただいた方の

想いを損ねることなく届けるかが大切なのだと思います。

今回の特集では、T-ACTについて取り上げました。私自身、T-ACTについては入学当初に説明を受けたきりで今まで詳しく知る機会がなかったのですが、取材を通して参加した方の想いに触れ、筑波大学の新たな魅力に気づきました。この紫峰の風第4号は、新年度を迎えて最初の号でもあります。新入生やその保護者の皆様に、私を感じた大学の魅力を知っていただけたら、ひいては大学生活を送る上での一つのヒントとなることができれば幸いです。

最後になりましたが、これからも魅力ある広報誌を目指し尽力していきたいと思っております。今年度もどうぞ紫峰の風をよろしくお祈りします。

(文責/芸サ連広報局員 大野茜・応理3年)

T-ACTのすゝめ

筑波大学にはT-ACTという新しい活動を始めてみたい学生や、ボランティアに参加したい学生をサポートする仕組みがあるのをご存知ですか？ T-ACTには学生が「やってみたい」ことを立案する「T-ACTアクション」、教職員が立案する「T-ACTプラン」、地域活動団体が募集する「T-ACTボランティア」の3種類があり、学生が好きなタイミングで始めることができます。比較的短期間であることが特徴で、普段は忙しいけど少し時間に余裕ができたので何かをしたいという学生に特に好評です。

一方で学生にT-ACTの存在自体は広く知れ渡っているものの、実際にどのような活動があるのかよく分からない学生も多いようです。そこで今回の特集では実際にT-ACTを利用した学生にインタビューをして生の声をお届けします。今回はボランティアとして「Summer Art Camp」の活動に参加した関尾湖富さん(心理学類3年)とアクションとして「世界一大きな授業」を企画した高橋和生さん(障害科学類2年)にインタビューを行いました。

Summer Art Camp

Q1「Summer Art Campの活動内容を詳しく教えてください。」

A1「普段児童養護施設で暮らしている子供たちと、山梨県の山の中にあるキャンプ場に行って、そこで臨床美術のセラピーを行うというものでした。臨床美術というのは、脳を活性化して認知症の症状を和らげることを目的に作られたアートプログラムなんですけど、これは絵の上手い・下手とかではなくて、基本的に自由に、正解とかはない、みたいな感じで、いろんな素材を使ってアート作品を作っていく活動です。臨床美術士の方が参加者ひとりひとりに寄り添って一緒に作っていく形になっています。そのキャンプを2泊3日で行い、その同伴のボランティアとして参加しました。アートプログラムの方も手伝ったんですけど、ご飯の準備とかも子供たちと一緒にしたりしました。」



Q2「臨床美術というのは、絵を描くという行動に精神的な効果があるのですか？ それとも、そういった作品を鑑賞することで効果が得られるのですか？」

A2「実際に作っていくことで、脳の活性化とカリフレッシュになるように開発されているプログラムです。印象的だったのは、作品を作り終わった後に、皆でひとりひとりの完成品を見て、「この作品はここがいいね。」と、必ず褒めるようにしていました。写真集があるので持ってきたんですけど……(取り出した写真集を開き、説明しながら)これはアートキャンプの主催者の方が作ってくれたキャンプの写真集です。このように自然に囲まれた中で活動しました。本当に自由に、決め事も少ないので、上手く描くとかでもないで、すごく子供たちの個性が溢れていますね。(写真集の中の絵が描いてあるページを指して)例えばこれは、写真にある木の根っこから自由につなげて、自由に色を塗って、というものなんですけど、それぞれ全然違う作品ができてるのが面白いと思います。(他のページを見せながら)ごはんも、皆でパーベキューとかを作って食べてますね。ろくろ体験とかもやりました。これはとうもろこしの絵を描いたもので、ちよっとやり方は示んですけど、でもすごい子供たちによってそれぞれ全然違う作品ができてますね。」



関尾湖富さん

Q3「この活動の場としてT-ACTを選んだのはなぜですか？」

A3「特にT-ACTにこだわっていたわけではなくて、夏休み中にボランティアをやりたいなと思っていて、掲示板にT-ACTの募集がたくさん載っていてその中からこれを見つけて、私はアートも結構趣味として好きですし、心理学類なので、臨床美術が心理に関係ありそうだなと思って選びました。」

Q4「活動してみて嬉しかったことや苦労したことはありますか？」

A4「そうですね……この子供たちはすごく明るくていい子達ばかりなんですけど、普段は施設で暮らしていて、虐待とかいろんな事情があって施設で暮らしていて、しかも本来だったら施設がお盆休みみたいな感じで普段施設で暮らしている子供も親元に帰ったりする時期に開かれたキャンプだったんですよ。その皆が帰る短い時期でさえも帰れないくらい家庭の状況がよくない子供が集まったキャンプだったので、参加する前はどうか接したらいいのかなって思ってたんですけど、実際すごく明るくていい子達ばかりでしたね。結構子供たちがずっとはしゃいでいて大変だったんですけど、嬉しかったのは、移動とかは班が決められていて大体一緒にいる子が決まっていたんですけど、その子が最後にボランティア皆に手紙を書いてくれて、楽しかったというメッセージカードをくれて、それがすごく嬉しかったです。」

Q5「最後に、これからT-ACTに参加しようと考えている方にメッセージをお願いします。」

A5「そうですね……これだけボランティアの情報が近くにまとめられていることって、ありがたいという便利なので、もっといろいろ自分が興味をもてるような企画がないか探して使ってみてほしいなと思います。とてもいい経験になったと思います。」

(取材/文サ連広報局長 長坂美優・創成2年、広報部会 村上優衣・人文4年)

世界一大きな授業

Q1「まずは「世界一大きな授業」という企画について説明していただけますか？」

A1「「世界一大きな授業」というのは2003年から始まったもので、世界中の子供に教育を、というのを目標に、世界中の教育の現状に目を向けて、教育の大切さについて考えていこうという世界規模のイベントで、いろんな国で行われています。SDGs(持続可能な開発目標)の目標4が、すべての子供に質の高い教育を、ということ掲げていて、それを実現するための一つのイベントということで日本では教育協力NGOネットワークというNGOが主催をしています。」

Q2「T-ACTでは具体的にどんなことをしたのですか？」

A2「「世界一大きな授業」の教材を使って、小学校4年生から中学生までと、高校生から大学生までの2回の授業を行って、体験型学習みたいな感じにいるアクティビティを交えながら、今の世界の教育事情はこうなっているんだということを知ってもらって、私たちが今できるのはどんなことだろうと考えるような授業を夏に行いました。」

Q3「どういう経緯でT-ACTで活動しようと思われたのですか？」

A3「「世界一大きな授業」は毎年開催されていて、高校生のときに一度やったので、もう一回やりたいなと思っていました。入学式でもらったたくさんの資料の中に、T-ACTのパンフレットもあって、これならできかなと思い、やることにしました。」

Q4「活動していた中で、これが嬉しかったな、大変だったと思うことはありましたか？」

A4「授業を2回やったんですけど、その1回目のときに、小学生が凄



高橋和生さん

く楽しそうにやってくれたのと、授業が始まったときには何も知らなかった子達が、終わるときには他の国の子達のことについて思ってくれていて、感想とか、もっとこうしたらいいんじゃないみたいなアイデアとかをたくさん書いてくれていて、そのときはやってよかったなと凄く思いました。

また、「世界一大きな授業」について知っていたのが私だけで、周りにどう理解してもらおうかが大変だったのと、広報活動で人集めるのが結構大変でした。

広報活動はまずポスターを作って、大学内でメンバーを集めるときもいろんな所でビラを配ったりして、あとは小学生を集めるときも、各小学校に持って行ってチラシを配ってもらっていました。」

Q5「高橋さん自身が世界の教育事情について目を向けたのは何かきっかけがあったのですか？」

A5「もともと私は医学の方を目指していて、高校のときに一年間研究をする授業があって、それで発展途上国の医療について調べていたんですけど、医療における様々な問題の根本にいくところは教育で、他の色々な社会問題も一番もとの部分は教育なのかなと研究を通して思っていて、それから教育に興味を持ち始めて、今回の活動に繋がりました。」

Q6「最後に、T-ACTをこれからやってみようと思っている人にメッセージをお願いします。」

A6「私もはじめてここに来たとき、入学して1ヶ月、2ヶ月くらいのときに試しに話を聞いてみようと思って来たんですけど、本当に凄くたくさんサポートしていただいて、少しでもやりたいという気持ちがあればきっと実現できると思うので、まずは挑戦してみてくださいなと思います。」



(取材/芸サ連広報局長 劉承桓・地球3年、芸サ連広報局員 大野茜・応理3年、広報部会 清野晃平・生物4年)

文化系サークル連合会活動紹介 ～文サ連をもっと知りたい～

文サ連紹介

文化系サークル連合会、通称文サ連には現在37のサークルが加盟しており、音楽や文学などの創作活動、ボランティアから旅行まで各々幅広い活動を行っています。そして、それら37の多岐にわたる活動を行う諸々の団体が相互援助や利害の調整を行うために連合としてまとまっているのが文サ連です。

体育会や芸術系サークル連合会と比べると、文サ連の大きな特徴としてそれら両者より所属団体の活動が極端に幅広いことが挙げられます。人間の行う活動にはおよそ文化が付随しますし、文サ連は基本的には来るもの拒まずの精神で多くの団体を受け入れています。そのために文サ連として何か統一的な活動の指針やまとまりの軸となるものはないといってもよく、外から見ると何をやっているのか分からないところもあるかと思えます。私でも文サ連をまとまりとして一言で言い表すことは出来ません。しかし、そのために寧ろ文サ連は筑波大学の課外活動団体の受け皿、多種多様なサークルの受け入れ先として最も基底となる連合会としての役割を果たしています。

このような文サ連を運営し、維持しているのが、団体協議会と運営委員会です。これから紹介していくように、団体協議会も運営委員会も各サークルから選出されたサークル員によって構成されており、その点でも文サ連は自治的で相互支援的な集まりだと言えます。

団体協議会は各サークルの代表者が月に1回集まって文サ連に関するあれこれを決めていく文サ連の唯一の議決機関であり、言わば文サ連の国会のようなものです。文サ連の会則の改訂や、体育会や芸術系サークル連合会と協力して新歓祭を行うかどうかこの団体協議会によって決定されます。また、どの

サークルを文サ連の団体として認定してもらうか大学に推薦する認定推薦もこの団体協議会で決定され、この団体協議会なくして文サ連の活動はほとんど行うことができません。

そして、その団体協議会の議決にも従いながら、文サ連の運営や各サークルの活動の支援を行っているのが、運営委員長を中心とした運営委員会です。運営委員長と副委員長、および7つの局によって成り立っている運営委員会も団体協議会と同様、各サークルから基本的に一人ずつ選出される運営委員によって構成されています。運営委員会では、それぞれの局ごとに紫峰会基金からの援助金の配分や、新歓祭や文サ連合同新歓の企画・運営、あるいは文サ館にまつわる設備の維持管理などを行っています。そして、それらの活動を通して各サークルの活動が円滑に行われ、また文サ連が文サ連として存在していくための補助を行っています。

これらの文サ連の活動を支援してくださっているのが紫峰会基金です。紫峰会基金では文サ連を含む課外活動に対する援助金の支給や会計に関する相談、そして私自身もお世話になった団体の運営相談などを行っており、私たちの活動をサポートしていただいております。紫峰会基金は保護者などの方々からの寄付金によって運営されており、ここで支援していただいている方にお礼を申し上げます。また、これからどうかご理解とご協力のほど、よろしく申し上げます。

(寄稿/文サ連運営委員長 古山幹人・人文3年)

映画研究部

筑波大学映画研究部には、2017年3月現在1年生3人、2年生11人、3年生3人の部員が所属しています。活動の中心となり団体の運営を行っているのは2、3年生ですが、この他に4年生、大学院生も頻繁に活動に参加しています。映画研究部では、毎週火曜日と金曜日の18時30分から、大学の教室を使用して映画の鑑賞会をすることを基本の活動としています。この際に観る映画については毎月ミーティングを行い、テーマに沿って決めたり、部員同士での話し合いによって決められます。毎回の活動後には部員で食事に行き、活動で観た映画やそれ以外の映画について知見や感想を語り合う時間を設けています。春と夏にはバーベキューや旅行を行い部員の親睦を深めています。毎年2月には、現役部員に加え、映画研究部の卒業生を招きOB・OG会を行っています。映画研究部は筑波大学建学時から存在する団体であるため、OB・OG会では幅広い年代の卒業生のお話を伺うことができ、昔の筑波大学や映画研究部の雰囲気、活動を現役部員が知る貴重な機会となっています。また年に4回、映画研究部の機関紙である「カチンコ」の原稿を各部員が執筆し、冊子としてまとめています。「カチンコ」は各部員が、最近観た映画についての感想・考察や、映画に関連する事柄を自由に書き、他の部員や外部の人達に紹介するものです。来年度からの活動では、映画に関連した、部員が積極的に参加できる活動をさらに模索していきたいと考えています。

(寄稿/映画研究部部長 服部頌生・社工3年)



普段の稽古の様子

茶道部 和敬清寂社

私たち茶道部和敬清寂社は、週に2回和室でお稽古をしています。裏千家の先生が丁寧にご指導くださるので、初心者でもしっかりと作法を身につけることができます。部長の私も大学から茶道を始めましたが、ますますその魅力に引き込まれています。伝統文化である茶道には、古くから日本人が大切にしてきた美意識が詰めこまれており、五感で楽しむ美だと思っています。和菓子は季節感があり、見た目も味も楽しめます。お点前も、例えばお湯を汲むときの音やお茶を点てるときの音など、静かな世界に響く音は不思議と心を豊かにしてくれます。毎年5月と11月にお茶会を開催していますので、ぜひ茶道の美を感じていただけたらと思います。

(寄稿/茶道部和敬清寂社部長 山口さやか・生物3年)

芸術系サークル連合会活動紹介 ～芸サ連をもっと知りたい～

芸サ連紹介

芸術系サークル連合会（以下、芸サ連）は多種多様な芸術活動に取り組んでいる課外活動団体によって構成された学生組織であり、構成団体の運営支援及び相互理解と親睦、加えて筑波大学及び地域における芸術の振興を目的としております。

昭和48年、前身である東京教育大学の伝統を引き継いだ新構想大学として筑波大学は開学し、同時に数多くのサークルが生まれました。開学間もない筑波大学の環境下で、芸術系サークルは活動場所や物品の保管場所、発表の場などの確保をはじめとする問題に直面し、こうした諸問題の解決が必要とされました。こういった事情を背景に、昭和52年、芸術系サークルの抱える問題の解決のために、学生の自治組織として芸術系サークル連合会が発足しました。

それからおよそ40年、現在芸サ連には個性豊かな計29ものサークルが所属しています。それらのサークルはそれぞれが設ける発表の場に向け、音楽やダンス、演劇をはじめとする様々な活動を行っております。是非それらの発表の場に足を運んでみてください。日々の活動で磨かれた芸術が、きっと皆さんの生活の中の潤いとなると思います。

最後に、芸サ連は学生による自治組織です。そして学生が今後も課外活動を充実させていくために、紫峰会基金からの支援が不可欠であります。皆様のご協力によって充実した活動が行えている現状に感謝するとともに、今後とも変わらぬご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(寄稿/芸サ連運営委員長 金子真太郎・教育3年)



雙峰祭展示後の集合写真

写真部

私たち筑波大学写真部は写真の講評会や撮影遠足、展示会を通じて、みんなが楽しく写真に関われるような活動を行っています。週に1回のミーティングでは、部員同士で最近撮影した写真をプリントして見せあい、構図や色味などについて意見を交わし合います。ふた月に1回ほどのペースで撮影遠足をされていて、最近では江の島や上野動物園、金沢などに行きました。展示会は雙峰祭での展示の他に、BiViつくばの筑波大学サテライトオフィスや、大学内のスペースをお借りして、年に5回ほど行っています。

これからも部員がそれぞれの視点で切り取った写真を展示していきますので、よろしければ一度展示会に足をお運びください。

(寄稿/写真部部長 斎藤聖也・応理3年)



NHKホールでの演奏

津軽三味線倶楽部 無絃塾

私達は日本伝統芸能である津軽三味線や和太鼓、民謡、舞踊、お箏等を総合的に学び、その練習と発表を通して伝統芸能を継承し、更にはその発展を目指して活動しています。

大学に入学してから三味線を始めた人ばかりですが、総勢50人で“明るく楽しく元気よく!”をモットーに練習に励んでいます。プロの講師の方から直接ご指導いただき、各地で演奏活動もしています。

4年間6年間の集大成として毎年、1,000人収容のホールで昼夜2回の卒業公演を行い、多くの方々に応援していただいています。

そういった活動を通して、着物の着付けや礼儀作法、舞台マナー等も学び、演奏だけにとどまらない幅広い範囲で日本伝統芸能に触れています。

(寄稿/津軽三味線倶楽部無絃塾 徳永苑子・生物2年)



仙台で行われた伊達な街四丁目アカベラストリートに出演した時の写真

アカベラサークル Doo-Wop

私たちは4~6人程の人数でバンドを組んで楽器を使わず声のみで音楽を作る“アカベラ”というものをやっています。J-popやジャズなど様々な音楽をカバーしています。ハモネブというテレビ番組で知っている方もいるのではないのでしょうか。普段はバンドごとにメンバーで予定を組んで練習をしています。学園祭が年間一番大きな公演なのですが、それ以外にも教室でライブを行ったり、一般のイベントに出演させて頂いたりしています。みんなで楽しく歌っていて家族のような居心地のいいサークルです!

(寄稿/アカベラサークル Doo-Wop 代表 金子祐希・情報3年)

全学学類・専門学群代表者会議活動紹介 ～全代会をもっと知りたい～

全代会紹介

新入生の皆さま並びに保護者の皆さま、ご入学おめでとうございます。平成28年度全学学類・専門学群代表者会議（以下、全代会）議長を務めておりました、物理学類3年の鈴木祐悟と申します。このたびは筑波大学の学生組織形態、及び我々全代会の活動趣旨や内容に関して、簡単ではございますが紹介させていただきますと思います。



全体写真

初めに、少し紛らわしい学生組織の形態についてお話しします。筑波大学には多数の学生組織が混在します。中でもまず新入生全員に関係するのが、筑波大生全員が構成員であるクラス制度です。筑波大生は入学すると、学類・専門学群ごとにクラスという組織単位に分類されます。さらに、各クラスから数名、その学類の代表者としてクラス代表が選出されます。クラス代表の集まりがクラス代表者会議（以下、クラ代会）となり、該当学類・専門学群の問題解決や学生生活向上に臨みます。そのクラ代会から各学類・専門学群毎に代表を3名選出し組織しているのが、我々全代会でございます。

全代会は、全25学類・専門学群に設置されているクラ代会にて選出された座長団75名で構成されています。筑波大生の生活・教育環境に関する意見・要望を大学に提出したり、筑波大学内の様々な組織と連携したりする他、大学の提示する事業計画に対し、学生の代表として意見を述べるのが全代会の主な業務です。つまり、筑波大生の学生代表であると同時に、学生目線から筑波大生の学生生活向上を図る組織であるといえます。



副学長等と全代会構成員との懇談会の様子

さて、次に全代会の構成についてお話しします。要素としては、座長団が参加する会議、それぞれ専門的な事項に関して活動する委員会、全体を統括する議長団の3つでございます。会議では、学園祭開催に関する議題や、学類等から挙げられた議題を審議します。この場で承認された議題は、議長団を通して大学側に提出

されます。委員会では、より専門的な業務を6つのジャンルに区別し、各々の委員会ごとに活動を行います。上述しました生活環境、教育環境、学内の行事、広報業務等がこれに当たります。議長団は、議長1名・副議長2名で構成され、上述全てを統括する全代会の代表を担っております。



会議の様子

以上が全代会の活動形態ですが、ここで1つお願いがございます。全代会はまだまだ発展段階にある組織で、筑波大学内でも学生目線から取り組むべき問題は尽きません。より筑波大生ひとりひとりの学生生活を向上させるため、お気付きの点がございましたら、お声かけいただければありがたく存じます。また、全代会という組織を頭の片隅に置き、今後とも応援していただければ幸いです。新入生の皆さまが大学生活を有意義に過ごすことができますよう、我々も尽力してまいりますので、よろしくお祈りします。
(寄稿/全学学類・専門学群代表者会議平成28年度議長 鈴木祐悟・物理3年)

新入生歓迎特別委員会について

新入生歓迎特別委員会（以下「新特」）では新入生歓迎行事の企画・運営をサポートしています。対象は学類や専門学群を単位とする新入生歓迎委員会です。新入生歓迎委員会では学類の先輩から新入生にむけて、大学生生活の手助けとなる情報交換の機会を各々で設けています。

新特の主な役割は、「新歓ネットを通じた情報共有」と「委員選出の説明」です。新歓ネットは、各新入生歓迎委員会の代表者に、大学側から全代会にもたらされる情報や新入生歓迎行事での決め事を伝える会です。また、この会を通して各種資料の配布や、新入生歓迎委員会内で出た大学への質問への回答を行ったりもしています。

学則で定められているように、筑波大学のクラスにはそれぞれ数名の学生委員会（スポーツ・デー学生委員会と学園祭実行委員会）への委員の選出が義務付けられています。また、全代会へも各学類・専門学群から座長団の選出が義務付けられています。新特はこれら学生委員会と協力して、新入生歓迎委員会への委員選出義務に関する周知を行っています。

2017年度は学生宿舎にグローバルヴィレッジが新設されたり、大会会館の工事に伴い入学式がつくば国際会議場で行われたりといった、新入生歓迎行事に影響のある昨年度からの変更があり、新特は大学側との調整や各新入生歓迎委員会との情報共有を行ってまいりました。新特では今後も、新入生歓迎委員会が昨年同様にスムーズな新入生歓迎行事を実施できるよう、また新入生が不利益を被ることがないようにその職務を全うしていきたいと思っております。

(寄稿/新入生歓迎特別委員会委員長 石川貴嗣・資源2年)

平成28年度 課外活動団体援助金額ランキング

文サ連	金額 (円)	アカベラサークル Doo-Wop	38,926	ワンダーフォーゲルクラブ	110,221
海洋研究会	542,912	ピアノ愛好会	33,029	男子ハンドボール部	98,412
歌留多部	211,483	Realjam	31,415	体操競技部	96,840
歴史探訪会	189,836	ミュージカル集団 ESSASSA	29,030	漕艇部	83,531
TOJO K-ON	165,819	THK筑波放送協会	25,378	女子ラクロス部	78,463
斬桐舞	78,084	劇団竹蜻蛉	24,110	剣道同好会	70,662
E.S.S.	67,379	JAZZ 愛好会	23,642	アーチェリー部	63,765
野生動物研究会	60,855	ギター・マンドリン部	23,089	フェアリースキークラブ	60,657
手話サークル	60,540	フォルクローレサークル南	20,907	女子ソフトボール部	57,844
筑波大鉄研「旅と鉄道の会」	58,841	劇団筑波小劇場	20,495	女子バスケットボール部	53,578
野外活動クラブ	47,447	写真部	19,255	硬式庭球部	51,003
社会福祉研究会	44,276	筑波能・狂言研究会	18,623	女子アイスホッケー部	45,621
天文研究会	43,528	焼き物をつくる会	17,636	バレーボール同好会	43,738
現代視覚文化研究会	40,764	邦楽部	17,541	スキー部	42,096
茶道同好会	35,032	男声合唱団メンネルコール	17,532	フィールドホッケー部	39,877
CLOVER～難民と共に歩むユース団体～	25,966	ViCC- 映画をつくる会 -	16,610	柔道部	39,817
茶道部和敬清寂社	24,963	書道部	16,232	アメリカンフットボール同好会	35,022
囲碁部	23,782	ブロックプレーテ同好会	15,802	ヨット部	33,379
将棋部	23,368	人形劇団 NEU	15,721	鹿島神流武道部	31,487
ストーリーテリング研究会	23,022	フォルクローレ愛好会	15,603	バスケットボール同好会	26,442
つくば鳥人間の会	22,847	ジャグリングサークル Sheep	15,392	合気道部	19,405
図画団	19,960	落語研究会	15,146	トランポリン同好会	18,221
池坊華道部	19,661			アイススケート部	16,978
マジシャンズクラブ	18,843	体育会	金額 (円)	空手道部	16,818
ねっしー・自然教育研究会	18,707	硬式野球部	1,065,058	少林寺拳法部	15,960
アマチュア無線クラブ	16,654	ラグビー部	889,104	体操部	15,446
筑波文学の会	14,762	陸上競技部	800,418	ハンドボール同好会	13,697
山岳旅の会	14,447	蹴球部	746,862	ライフル射撃部	13,072
園芸クラブ	13,795	バドミントン同好会	506,755	ライフセービング部	13,000
SF 研究会アルビレオ	13,784	男子ラクロス部	470,543		
漫画研究会	13,425	男子バレーボール部	432,896	体育会医学部会	金額 (円)
T.A.S.C.	13,369	軟式庭球部	373,113	医学アイスホッケー部	684,720
Amusement Creators	13,287	男子アイスホッケー部	358,672	医学バドミントン部	569,459
映画研究部	13,262	アメリカン・フットボール部	342,091	医学サッカー部	353,547
写真部さくら組	13,152	水泳部	336,413	医学ゴルフ部	348,750
I.T.C.	13,087	女子ハンドボール部	332,911	医学ラグビー部	284,258
文芸部	13,063	バドミントン部	314,318	医学バスケットボール部	282,548
宇宙工学研究会	13,057	女子バレーボール部	303,022	医学スキー部	179,608
		トリアスロン部	290,098	医学準硬式野球部	179,511
		卓球部	260,527	医学水泳部	169,382
		馬術部	252,557	医学卓球部	165,947
		オリエンテーリング部	205,710	医学ヨット部	158,116
		準硬式野球部	194,399	医学硬式庭球部	156,581
		男子バスケットボール部	174,795	医学弓道部	142,819
		剣道部	174,697	医学陸上競技部	120,126
		女子サッカー部	156,758	医学バレーボール部	96,823
		ダンス部	129,153	医学ソフトテニス部	56,606
		男子ソフトボール部	128,807	医学ハンドボール部	50,218
		サイクリング部	128,572	医学剣道部	50,201
		サッカー同好会	120,776	医学空手部	29,945
		弓道部	113,448		
芸サ連	金額 (円)				
管弦楽団	789,087				
吹奏楽団	701,113				
E.L.L. (筑波軽音楽協会)	532,056				
混声合唱団	233,717				
つくばフォーク村	154,371				
津軽三味線倶楽部無絃塾	150,904				
筑波音楽協会	125,474				
ときめき太鼓塾	113,912				
合唱団むくどり	87,003				
舞踏研究会	53,871				
応援部 WINS	53,629				

体育会活動紹介 ～体育会をもっと知りたい～

体育会紹介

筑波大学体育会とは、筑波大学の体育系の課外活動団体によって構成される学生自治組織のことで、開学当初の筑波大学では、数多くの学生団体が設立されましたが、施設・設備、経済的な面において問題が山積していました。大学側への要求のためにも、サークル連合体が必要であるとの立場から学生と大学との熱心な討議が行われました。その議論を通じて現在の体育会の構想は出来上がり、学生役職者による自主運営というユニークな組織となりました。

現在、本学体育会には、46の部会、9の同好会、19の医学団体があり、その構成員は3,000人を超えます。一般的に「体育会」というと、スポーツで頂点を目指す団体のみを集まりであると考えられる方も多いのではないのでしょうか。しかしながら、筑波大学体育会はそうではありません。私たちは、趣味としてスポーツを楽しむ同好会も仲間として認めています。スポーツはチャンピオンを目指す人々だけのものではないという想いのもと、「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊

かな生活を営むことが出来る社会」の実現に向け、その実践者の育成の場を確保しています。

体育会所属団体の栄光をお知らせする機会も、年々増えてきています。その一方で多くの団体が、地域や全国から競技者・子ども達をつくばに集め、スポーツ大会や教室を開催しています。これは師範学校に起源を持つ筑波大学ならではの活動であり、大きな魅力であると言えます。このような魅力的な組織づくりができるというのも、ひとえに寄附者の皆様のおかげと深く感謝しております。今後ともより一層のご支援を心よりお願い申し上げます。

(寄稿/体育会執行委員会委員長 久田陽介・体専4年)



写真左から：体育会発足式、女子サッカー部 スポーツ大会開催写真、第51回全日本大学ラグビー選手権大会



山の頂にて

ワンダーフォーゲルクラブ

『ワンダーフォーゲル』という言葉に聞き馴染みはありますか？——ワンダーフォーゲルクラブ（略称ワングル）に所属する私は、このようにお尋ねする機会がしばしばあります。端的に申しますと、『ワンダーフォーゲル』はアウトドア活動を広く指示する言葉であり、本学に限って言えば「ワングル＝山岳部」です。私たちは日帰り登山からテント泊の縦走登山まで、全国各地で幅広く活動しております。「登りたい人が登りたい山に登る団体」であり、初心者も大歓迎です。しかし向こう見ずに活動しているわけではありません。日々のミーティングで安全登山のための知識を学び、綿密な登山計画書を作成し、フィールドで知恵を体得しています。より詳細な活動内容について、また山の魅力について興味をお持ちの方は、是非私たちのホームページをご覧ください。

(寄稿/ワンダーフォーゲルクラブ主務 芹川聖樹・人文4年)



第51回 日筑定期戦

女子バスケットボール部

私たち女子バスケットボール部は部員が少ない中、全員で力をあわせて大学“日本一”の称号を手にするために、日々練習に励んでいます。今年度は身長が低い分走るバスケを展開し、新しい“筑波バスケ”をコートで表現したいと考えています。

さて日本バスケットボール界はBリーグの開幕やリオ五輪女子日本代表の活躍により、世間から注目を集めるようになりました。しかし毎年秋に行われる大学女子のリーグ戦ではまだまだ周知されておらず、見に来てくださる方が少ないのが現状です。そこで私たちは大学女子バスケットボールを筑波からより一層盛り上げたいと、中央体育館でホームゲームを行っています。必ず勝利を掴みとりますので、ぜひ多くの方に間近でバスケットボールの面白さを感じていただきたいです。最後になりますが、女子バスケットボール部への応援、宜しくお願い致します。

(寄稿/女子バスケットボール部主務 福田真由・体専3年)



男子関東医科リーグ

医学バドミントン部

我々医学バドミントン部はバドミントン技術の向上を目標に日々練習に取り組んでいます。普段は学外の体育館などを利用して、トレーニングからノック練習、パターン練やラリー練など、さまざまな練習を行っています。また、土日を使っての練習試合や大会に参加することもあり、試合形式の練習も行っております。私たちは主に医学群に所属する学生によって構成されていますが、医学群以外の学生も多く所属しており、学類の隔てなく、仲良く活動しています。また、バドミントンの練習以外にも、キャンプや夏合宿での花火、すいか割りなどのイベントを行う事も多くあります。初心者、経験者それぞれが自分にあった目標に向かって自由に練習に参加しています。

(寄稿/医学バドミントン部主将 野口僚太・医学2年)



豪快な一振り

医学準硬式野球部

こんにちは。医学準硬式野球部です。私たち医学準硬式野球部は50年近くの歴史を持ち、現在は医学類、医療科学類、看護学類の学生から構成され、プレーヤー、マネージャー合わせて38人で活動しています。我々の一番の目標は東日本医科学生体育大会で優勝することです。ここ3年間は3年連続準々決勝敗退と悔しい思いをしているので、今年こそはとの思いでチーム一丸となって練習に励んでおります。私事ではありますが、主将となつてから、野球について多くのことを学び、野球の難しさに自分の至らなさを感じると共に、野球の奥深さに楽しさすら感じています。これからも部員一同野球に真摯に向き合い目標達成のために頑張つてまいります。

(寄稿/医学準硬式野球部主将 玉川大和・医学3年)

筑波大学体育会執行委員会40周年記念式典

昨年、筑波大学体育会は40周年を迎えました。これを祝い、2017年2月11日に茗溪会館で、体育会執行委員会40周年記念式典が開催されました。

体育会執行委員会OBOG会では毎年2月にOBOG会総会を行っており、現役とOBOGの交流及び会務の報告等行っていますが、今年度はこの総会を拡張する形で40周年記念式典を催しました。40周年を機に普段参加できていないOBOGにも参加していただきたいと考え、重ねて参加の呼びかけを行った結果、社会人OBOG42名、学生OBOG15名、現役9名の計66名が参加する過去最大規模のOBOG会となりました。来賓として江田昌佑様(茗溪会理事長)、玉川信一様(学生担当副学長)、山田幸雄様(体育センター長)等を迎え、OBOGにとっても現役にとっても充実した会となったと思います。

前半は年代別に分かれ、10代ごとに選出された代表者の思い出話を聞きつつ、現役当時を懐かしく振り返りました。後半には執行委員会の局別に分かれ、年代を超えて交流を行いました。



登壇する現役執行委員会



現役委員会へ記念品の贈呈



全体での宣揚歌「桐の葉」斉唱

式典の終盤では現役への記念品として壁掛け時計が贈られ、小林会長へは感謝の品として日本酒とペアグラスが贈られるというサプライズ企画もありました。最後には第41代の久田委員長による前口上の後、恒例の宣揚歌「桐の葉」を全体で斉唱し、閉会となりました。

私個人としてはOBOGの有志から成る40周年記念式典の準備委員会に参加し、社会で活躍しているOBOGの推進力や、体育会ならではの熱意とチームワークを感じることができました。現役の皆様にもOBOGの方々々が40年積み重ねてきたそういったものを少しでも感じていただければ幸いです。今後も筑波大学体育会が益々発展していきますよう、OBとして陰ながら支援していきたいと思っております。

体育会執行委員会40周年記念事業準備委員会
数理工学物質科学研究科1年 杉澤悠紀